

## 第50回藤原咲平先生をしのぶ会に出席して

余 田 成 男\*

2017年7月15日(土)午後1時より、長野県諏訪市霧ヶ峰強清水にある藤原咲平博士記念碑前で、第50回藤原咲平先生をしのぶ会が開催された。1961年に記念碑が建立され、1967年より毎年7月にしのぶ会が行われており、今年は50回目の節目にあたる。式典に引き続き、会場を諏訪市文化センターに移して、2015年度藤原賞受賞者である中澤哲夫さん(気象研究所台風研究部)による記念講演会があり、さらに、夕方にはしのぶ会出席者の懇親会が開催された。諏訪市教育委員会生涯学習課のお招きにより、藤原賞候補者推薦委員会委員長としてこれらの行事に参加させていただいたので、それらの様子をここに紹介する。

藤原咲平(ふじはら さくへい)先生は、1884年(明治17年)長野県上諏訪町(現諏訪市)の生まれで、県立諏訪中学校を卒業し、旧制第一高等学校、東京帝国大学、同大学院を経て、1909年に中央气象台に奉職された。1915年に「音の異常伝播の研究」の論文で理学博士となり、1920年には同研究により帝国学士院賞を受賞されている。また、「諏訪湖の御神渡りと気候の変化」を雑誌「信濃」に発表されたのもこの年であるが、同論文は最近の気候変動研究(Sharma *et al.* 2016)でも注目されている諏訪大社の古気候記録に関する最初の紹介記事である。同年12月より1922年3月までヨーロッパに留学し、エジンバラの気象学会で「渦動論」を発表されている(論文出版としてはFujiwhara 1921, 1923)。その後、1924年からは東京帝国大学教授を併任され、1941年には第5代中央气象台長に就任、1947年の退職まで、長きにわたり日本の気象事業の発展に精励された。1950年に永眠、享年66歳で

あった。作家の新田次郎氏は甥、数学者の藤原正彦氏は大甥にあたる。

式典は、藤原咲平博士記念碑保存会会長金子ゆかり諏訪市長のあいさつに始まり、藤原先生の功績・偉業が紹介され、それを後世に伝えていくとともに博士が愛された諏訪、霧ヶ峰の自然環境を引き継いでいく決意が述べられた(第1図)。また、諏訪市議会金子喜彦議長の来賓あいさつでは、最近の豪雨・土砂災害にも触れられ、地元での植林や間伐による減災策などの紹介があった。博士の甥にあたる藤原光人さんの遺族代表あいさつでは、諏訪の雷の特徴や霧ヶ峰のニコウキスゲにまつわる、子どもの頃の先生との思い出話が紹介され、半世紀にわたりしのぶ会を続けてこられた関係者への感謝の言葉が述べられた。最後に、参加者全員が藤原先生の胸像に黄菊を献花して、先生の遺徳を偲んだ。

会場の記念碑には、藤原先生の歌

くさ ね あおぞら  
草に臥て青空みれば  
てん ち われ ほか なにも  
天と地と我との外に何物もなし



第1図 第50回藤原咲平先生をしのぶ会。

\* Shigeo YODEN, 京都大学大学院理学研究科,  
yoden@kugi.kyoto-u.ac.jp

© 2017 日本気象学会

とともに、建立当時の和達清夫気象庁長官による顕彰の文書が刻まれていた。当日は梅雨の合間の好天に恵まれて、霧ヶ峰の草原では、式典の間にもグライダーが何度も離着陸を繰り返していた。実は藤原先生は日本のグライダーの父とも称されており、1932年には霧ヶ峰グライダー研究会を創立し、会長となられ、1934年には日本で最初のグライダー大会を霧ヶ峰で開催されている。記念碑の近くには霧ヶ峰滑空場と諏訪市霧ヶ峰グライダーふれあい館があり、新旧のグライダーの展示を拝見することもできた。

午後2時30分より4時まで、前長野地方気象台長高橋清利さん（気象庁地球環境・海洋部気候情報課）の企画ご尽力により、第50回を記念して、中澤哲夫さんの記念講演「地球温暖化で台風は強大化するのか？～20世紀の観測データから読み解く～」(諏訪市生涯学習講演会)があった。講演のはじめには気象研究所にある藤原文庫や藤原賞の表彰楯の渦巻きデザインの紹介があり、また、測候時報に掲載された予報者の心がけに関する記事(藤原 1933)の紹介もあった。その内容には、「七分の学理に三分の直観」「心を動かさぬこと」など、今もさまざまな状況で役に立ちそうな金言も含まれていた。本編では、地球温暖化の概説の後、これまでの観測から台風の発生数や強さの経年変化についてわかることや、21世紀末に向けて台風が今後どのように変化していくかの予測について、最新の知見に関する丁寧で分かりやすい講演があった。約80名の参加者があり、講演後には、地球温暖化に伴い強い台風が増える仕組みや、これから社会のとるべき対応などを含めて、多くの熱心な質問・応答や意見交換が行われた(第2図)。

講演会後に少し時間があり、隣の建物である諏訪市図書館の2階にある藤原咲平記念室・新田次郎記念室を訪れ見学した。記念室には先生の詳細な年譜があり、蔵書や遺品、写真などが展示されていた。内閣からの陸叙高等官一等の証書は、当時の帝国大学教授の立場が今とは大いに異なっていたことを示すものであり、感銘をうけた。

夕刻からの懇親会には、親族や来賓、地元諏訪市や記念碑保存会などの関係者が出席し、2時間余り歓談の時を過ごした。ご息女の霜田かなさんの藤原先生との思い出話や高橋さんの「天気」記事(高橋 2016)にまつわる話をはじめ、藤原先生と関係のある皆さんのいろいろな逸話のテーブルスピーチがあった。私も、気象学会の藤原賞の歴史や、藤原先生の偉業の伝



第2図 第50回記念の諏訪市生涯学習講演会。

承、気象学の学部講義での「藤原の効果」の单元などについて話させていただいた。因みに「藤原の効果」とは2つの接近した台風の相対運動のことで、室内実験結果の写真を中心とした論文(Fujiwhara 1931)が日本数学物理学会記事(第3期)に掲載されている。その力学の本質は2次元渦糸系の運動として理論的に示すことができるものであり、時間発展のアニメーション動画を含めて毎年講義をしている。

この度、金子ゆかり諏訪市長と諏訪市教育委員会のご厚意により、第50回藤原咲平先生をしのぶ会とその関連行事に参加させていただき、先生の偉業の数々について新たに多くのことを学ぶことができた。ここに感謝の意を表すものである。今回訪れた霧ヶ峰高原は夏の草花が美しく、諏訪湖は映画「君の名は。」の聖地としても国際的に有名になっているそうである。諏訪大社は7年に一度の式年造営御柱大祭でも有名であり、毎年8月の諏訪湖祭湖上花火大会は大勢の人たちで賑わうとうかがった。藤原先生の地元の皆さんの深い思いに触れ、いつかまたこの地をゆっくりと訪ねる機会をもちたいと思いつつ帰路に着いた。

#### 参考文献

- Fujiwhara, S., 1921: The natural tendency towards symmetry of motion and its application as a principle in meteorology. *Quart. J. Roy. Meteor. Soc.*, **47**, 287-292.  
 Fujiwhara, S., 1923: On the growth and decay of vortical systems. *Quart. J. Roy. Meteor. Soc.*, **49**, 75-104.  
 Fujiwhara, S., 1931: Short note on the behavior of two vortices. *Proc. Phys.-Math. Soc. Japan (3rd Series)*, **13**, 106-110.

- 藤原咲平, 1933: 予報者の心掛け. 測候時報, 4, 377-383.
- Sharma, S., J.J. Magnuson, R.D. Batt, L.A. Winslow, J. Korhonen and Y. Aono, 2016: Direct observations of ice seasonality reveal changes in climate over the past 320-570 years. Sci. Rep., 6, doi:10.1038/srep25061.
- 高橋清利, 2016: 「藤原賞」の読み方について. 天気, 63, 23.
-